

第2章 基本理念と基本計画

基本理念

『一人ひとりが尊重され、必要とされる南区の実現に向けて』

この基本理念は、第一次計画からずっと引き継がれてきているものですが、年月を重ねるにつれ、この理念の普遍性が深く感じられるようになりました。急ぎ過ぎる、とでもいうべき社会の目まぐるしい移り変わりはそのペースについていけない存在を置き去りにするかのようです。その結果、「不寛容」な社会になりつつある、知らない人に声をかけられる、かけることすらためらうような社会になってきているとニュースや新聞では報じられています。

こういった世相のなかで、年齢を重ねても、障害があっても、病気を抱えていても、生活上にさまざまな困難を抱えていても、どんな状況にあっても人がその存在を「誰かに認められ」、「誰かに必要とされる」ことで役割を見だし、生きがいやよろこびを感じることができるような社会の必要性はますます高まっていると思います。

今回、さまざま話し合った結果、これまで引き継いできた表現「一人ひとりが尊重され 必要とされる社会の実現に向けて」の「社会」を「南区」に置き換えることにしました。「わたしたちの南区」がそうなるように、みなさんと考えていきたい、少しでも動いていきたいという願いを込めたものです。

先ほど、不寛容な社会になってきた、と書きましたが、わたしたちが日ごろ感じるのは、「何かあったら手つたうよ」「声をかけてもらったら一緒にやるよ」「私にも何かできることがあるかも」というあたたかい南区の皆さんの思いです。その思いを形にする、思いや気持ちを行動に昇華させる、そのための計画が、この第4次南区地域福祉活動計画です。



基本計画

南区の自慢、宝を見つける

～「魅力ある誇りある愛着ある南区」だとみんなが思えることを目指して～

『自分のまちのために活躍する人を増やしたい』という思いのもと、『南区を愛する人＝南区のために活動する人』という仮説を立てました。そのために、南区を愛する人たちを増やそう！特に今後南区を支えてくださるであろう（そしてお子さんにもそれを伝えてくださるであろう）40～50代の皆さんに照準を合わせました。また、3次計画からの引継である「ここバリすぽっと」（詳しくは15ページをご覧ください）の発展的な展開も、この基本計画内で行うことにし、当初4つあった実施項目を2つに、4つあった実施活動・事業を2つに集約しました。

南区愛DNAが5年先、10年先、50年先も引き継がれ、地域を支える活動が受け継がれていくこと、新しい芽も育てることを目指します。

絆づくり

「ともに生きる」地域にしていくための具体的な方策について、『一人ひとりのちょっとした思いや手助けが大切、実は誰もがそうした気持ちを持っている』ことを前提に、思い立ったらいつでも気軽に何かお手伝い（ボランティア）できるしくみをつくること、またふれあい・いきいきサロン等の集いの場にも来られない方も出て来られるような場や機会について考えていきます。

その際、新しくつくるのではなく、なるべく既存の事業や活動・しくみを生かし、つなげることに主眼を置くとともに、地域の一員である施設や企業、学校等の協力を得ることにつながりを広げ、地域を支える仲間を増やしていくことも目標です。

つながりたい つたえたい つづきたい 確かな情報

情報共有・情報発信は、一次計画からずっと検討してきた事項です。情報発信の大きな課題のひとつは、情報が必要な人にほど、本人が必要としないため届かないこと。そこに区社協の広報力の弱さが加わり、情報についての計画項目はこれまで捗々しい成果が上がってきませんでした。

今回この課題を把握したうえで、区内の広報の現状を調査する大仕事に手をつけることになりました。調査結果をまとめていく過程において、発信元の団体・機関とつながることができ、広報の「横割り」を考える契機にもなるのではないかと考えています。そのうえで、どうしたら情報がわかりやすく効果的に伝わるのかという大きな宿題に「チャレンジ」します。